

令和5年度 長野県小諸商業高等学校 学校評価 自己評価（中間）

令和5年10月

A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

学校教育目標		中・長期的目標	
教育活動を通して、個人の尊厳と協調の精神を体得させ、民主的な国家社会の形成者たる資質を培うとともに、専門教育により広く国民経済における商業諸活動の担い手としての有為な人材を育成する。		<ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに健全で、人間性豊かな生徒を育てる。 ・学校及び社会生活の規律を重んじる心を育てる。 ・学習習慣を確立させ、自ら学び自ら考える態度を育てる。 ・進路目標を明確にさせ、その実現に向けて粘り強く努力する姿勢を育てる。 	
今年度の重点目標	分掌	評価	今後の課題・改善策等
1 基本的生活習慣の確立および、挨拶・身だしなみの徹底を図る。	1 学年	B	概ね、良好である。ただ、長期休業明けより指導対象となるものも複数いる。全体への注意喚起と個別指導を継続し、根気よく声掛けを行っていく。
	2 学年	B	指導に従う素直な面があり概ね良好ではあるが、一部の生徒の乱れが気にかかる。全体的な指導と個別の指導とを継続し、制服を正しく着こなす意義を理解させることを目指す。家庭連絡も徹底し、安定した学校生活・家庭生活を送れるよう支援する。
	3 学年	B	挨拶については概ね良好であるが、身だしなみについて一部不十分な生徒がいる。指導によって改善されつつあるので、今後も継続していきたい。
	生徒指導	B	生活習慣と挨拶に関しては概ね良好である。身だしなみについては日々の指導により一定の成果はあるが、不十分な生徒も見られ今後も粘り強く指導を続ける。
2 自ら問いを立て、その解決に向けて主体的・協働的に取り組む力を育成する。	1 学年	B	生徒一人一台パソコンの導入とビジネス探究プログラムの実施に伴い、グループ協議を含む多様な取組みを実施できた。継続して、より良いものを模索していく。
	2 学年	B	生徒会行事や学年行事等でリーダーシップを発揮するなど自主的に活動する姿が多くの生徒に見受けられた。今後は、消極的な生徒により寄り添いながら、主体的に活動できるようにサポートする。さらに生徒自ら選択し行動する機会や場面を作っていく。
	3 学年	B	自分の進路に向けて主体的に活動する生徒がいる一方で、教員の指示がないと行動できない生徒も存在する。今後も粘り強く指導を続けていく。
	進路指導	B	日頃の学校生活で、他者との対話を通じて視野を広げながら、積極的な取り組みができる環境作りを心がけなければならない。ビジネス探究プログラムを基礎として探究活動をどのように取り組み、活用していくかを関係部署と情報共有する必要がある。
3 地域社会との連携や協働による活動を通し、探究的な学びを推進する。	商業科	B	小高連携やデュアル実習、ビジネス探究プログラム、各企業、学校との連携授業において、概ね当初の計画通りに実施ができています。引き続き探究的な学びを推進するとともに、活動の検証を実施していきたい。
	生徒会	B	新たな試みの中で、小諸高校、市の商工会議所、選挙管理事務局等、地域の方と連携しながら行う取り組みが増えてきた。今後は、これらの活動が探究的な学びに繋がるような工夫を継続していく。
4 学習活動や様々な行事等へのICTの積極的活用、および知見の共有を推進する。	ICT	B	生徒、教員ともにICT活用スキルが向上しており、行事や授業で活用している。引き続き機器の管理、整備を行い、必要に応じて研修等開催する。
	教務	B	計画一斉オンライン授業に併せて、職員研修会を行った。また、全職員にICT端末を配布した。本年度、エドテック事業でモニタを導入し、授業で活用している。
	生徒会	B	昨年度までの知識をもとに更に発展させてICT機器の使用を積極的に行なった。リモートでの行事に限らず、様々な場面でICT機器を効果的に活用することができるようになってきた。
5 生徒一人ひとりの人権を尊重し、いじめ・体罰等のない、安心安全な学校をつくる。	1 学年	B	SSTやスマートフォン講座を早々に実施した甲斐もあり、大きなトラブルはない。授業やホームルーム活動等を通して、他者理解や違いを認めることを継続的に遂行していく。
	2 学年	B	長期休業明けにSSTの講座を実施した。全体的に目立った問題はないが、他者との関わりが苦手であったりうまくできなかったりする生徒が存在する。個々の状況を踏まえ、情報共有や連携をしながら丁寧な相談・指導を継続していく。
	3 学年	B	進路や人間関係について不安や悩みを抱えている生徒がいる。関係職員と協力しながら対応していきたい。
	人権平和	B	新型コロナウイルス感染による誹謗中傷や差別問題を人権学習の機会と捉え、学校独自の啓発ポスターを掲示した。
	生徒相談	B	今後もいじめ悩みアンケートやアセスを実施し、今後に活用する。